

比謝右京

佐久川 政喜 (1925・T14) 字比謝 (02 : 05)

うんかしー ひーじゃ ぶらく ひーじゃーちよー ちゆ
昔、比謝ぬ部落んかい比謝右京んでいる人
ぬめんしえーたしが。うぬ人おでーな五体んまんてい、
ちからち ぶし ひーじー
力持ちの武士やみしえーたんでいしが。平生、うぬ
ちゆ たばくぶぬ いし ちゆく たばくぶん
人が、煙草盆ん石さーに作らつとーる煙草盆でー、
ふつう ちゆ たー ていー ひさ
普通ぬ人の一二ちぬ手しん引提ぎゆーさんあた
ぬ煙草盆やたんでいしが。

ぶし うんかし か だみ
うりあんすか武士やぐと、昔え賭き試しんで
ひち ちからしゆーぶ ちゆー しゅうかん あ
いやーに、別から力勝負しーが来る習慣が有て
ーるふーじやしが。うぬ比謝橋ぬ、今ぬ交通安全ぬ
とう とうくる やんぼるせん い ちゆー みなと
塔がある所までー、山原船が入ち来る港や
たしが。うぬ港ぬんかい船頭達が、其処かい比謝
うーちよー かた くてー とう
右京でいる方でーな五体ぬまんどーんでい事ん
い か だみ ちゃ
でい言やーに、賭き試ししーがんち来くとう。

ひーじゃーちよー ちゆ どうー とうじ
うぬ比謝右京でいる人お自分ぬ妻んかい、
あま たばくぶぬむ ちゃー ちゆ
「彼処からな煙草盆持ち来にかい、うぬ人んか
じふい たばく ぬー
い是非な煙草ん何んうさぎれー」んちよーるふーじ
はなしー うん とうじ ひさ
ぬ話が出じていちゃくとう。うぬ妻が引提ぎ
ちえー たばくぶの ふつう ちゆ たー ていー
てい来る煙草盆お、普通ぬ人の一二ちん手しんち
よーん持ちうーさんあたぬ、でーな石し作らつと
ま たばくぶん ふなとー ちゃー
ーる大がさる煙草盆なやーにかい。うぬ船頭ぬ達や
んー か だみ
うり見じゃーに、賭き試しどくろーあらん、なーす
ほーぼー てひ うん ちゆ い つた
ぐ這ぬ体逃んぎてい行ぢやんでい言い伝えが、
ひーじゃーちよー はなし あ
比謝右京ぬ話有たしが。

とうない じい わつ とうー
くれー、隣ぬお爺さんから私たーが十歳びかー
ち はなし うび
ないに、聞ちえーる話るやくとう、まー、うる覚る
やくとう、はつきれーさんしが。とにかく、そういう
ひーじゃーちよー うぶぶし をう くと なま
比謝右京んでいる大武士が居たんでいぬ事う今
うび
までい覚とーしが。なー、うぬあたいるやんでー、私
わ
が分かいいしえー。

【共通語訳】

昔、比謝の部落に比謝右京という人がいらっしやっ
た。その人はとても体格もよく、力持ちであつたらし
い。普段、その人が使う煙草盆は石で作られていて、
普通の人が両手でも持てないぐらいの煙草盆だつた
そうだ。

比謝右京はそれほどの大力者で、昔は賭け試しとい
つて、他所から力勝負に来る習慣があつたようだね。
比謝橋には、現在の交通安全の塔がある所まで、山原
船が入って来るような港があつた。その港に停泊した
船頭たちが、そこには比謝右京というとても力持ちが
いると聞いて力勝負にきたそうだ。

そしたら、比謝右京は妻に、「向こうから煙草盆持
つて来て、その人たちに煙草でも差し上げなさい」と
言つたようだ。すると、妻が持ってきた煙草盆は、普
通の人が両手でも持てないような、石で作られた大き
な煙草盆だつた。船頭たちはそれを見て、力勝負どこ
ろではなく、すぐさまあちこちへ逃げて行つたという
言ひ伝えがある。それが、比謝右京の話なんだよ。

これは、隣のお爺さんから私らが十ぐらいに聞いた
話で、うる覚えだから、はっきりは分からないがね。
とにかく、そういう比謝右京という大力者がいたとい
うことは今でも聞いて覚えている。もうそのくらいだ
ね、私に分かるのは。